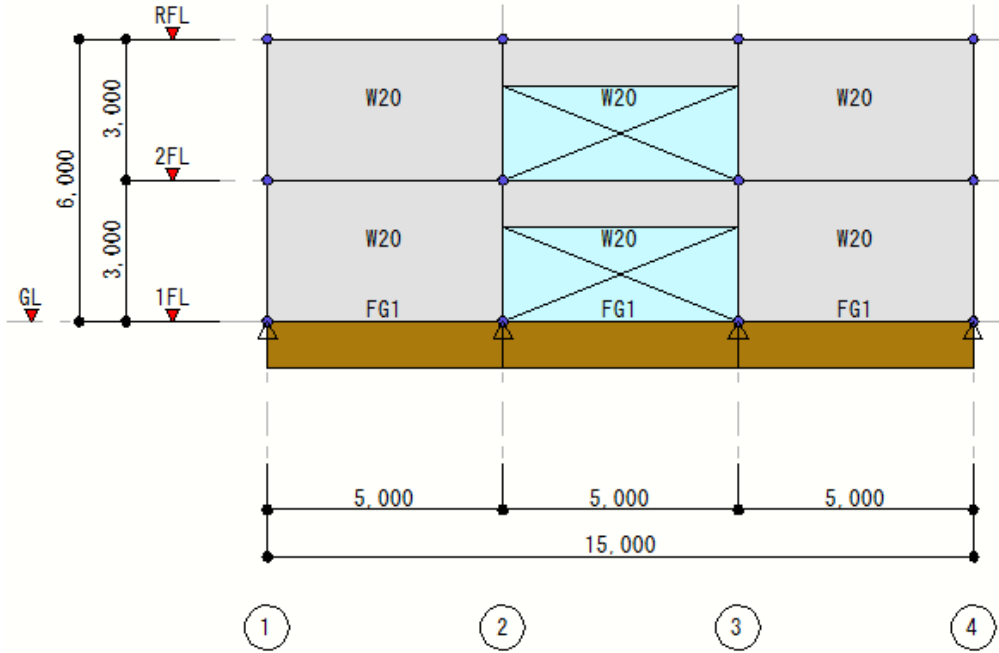


「杭頭曲げモーメント」 および 「耐力壁周りの梁の剛性増大率」 の入力例

建物モデル

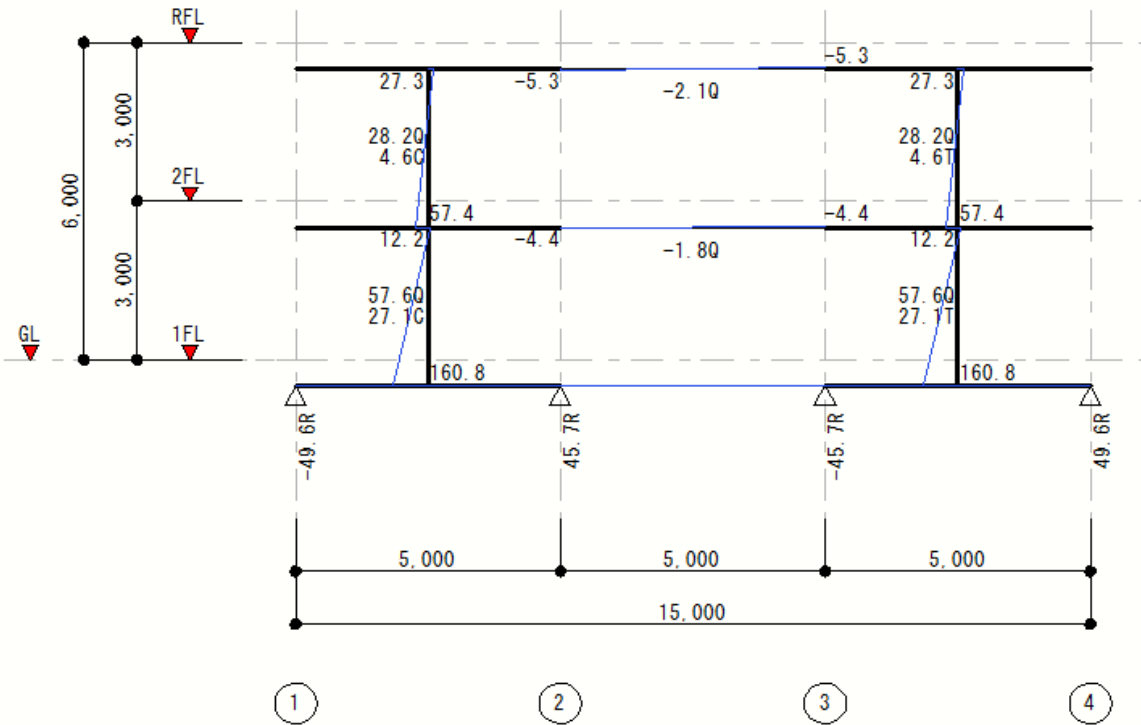
2階建て 3スパン

壁 (W20) : 壁厚=200[mm] 基礎梁 (FG1) : 幅×せい = 400[mm]×1000[mm]

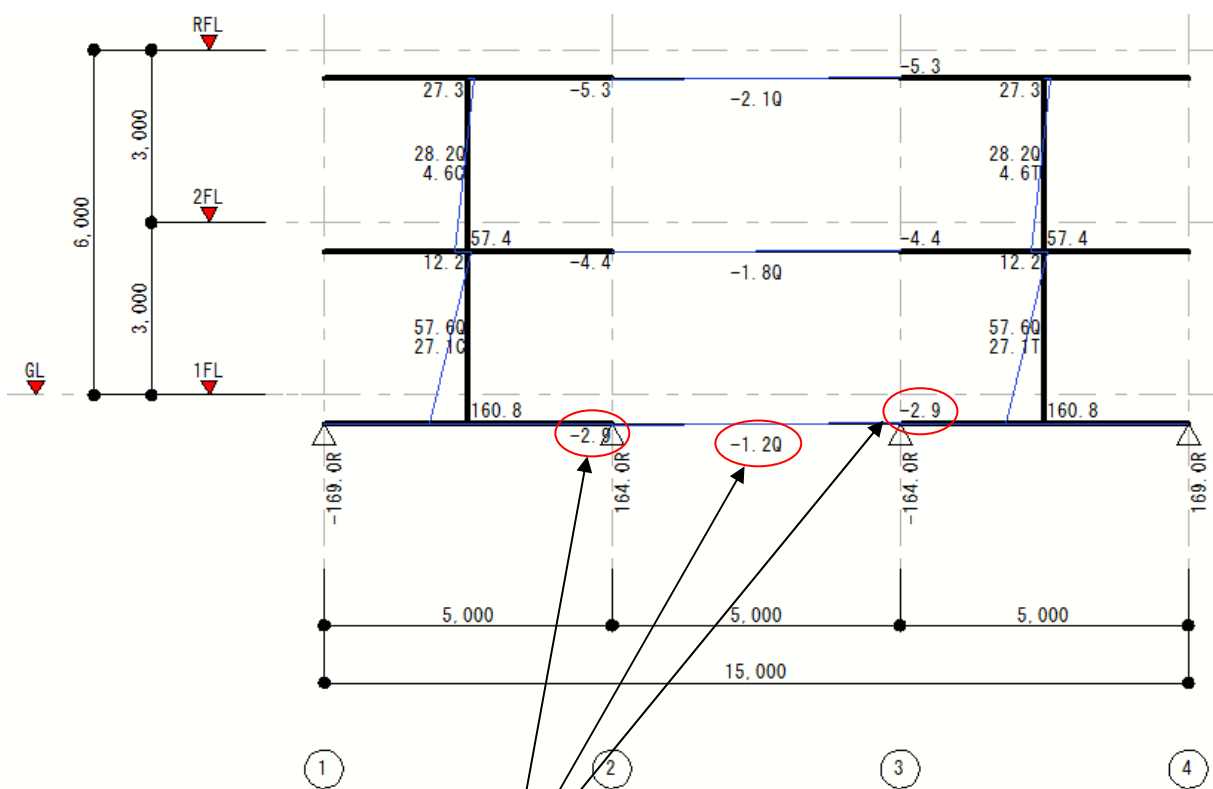
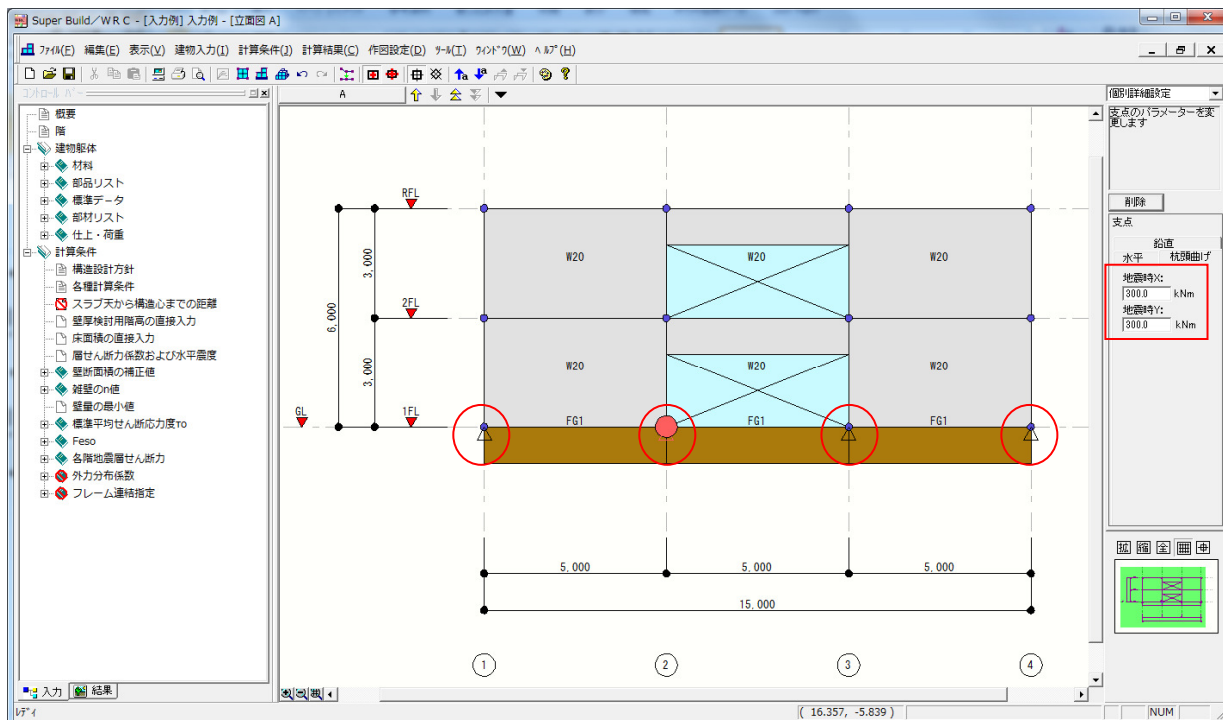


立体応力解析の結果 (地震時正加力時 応力図)

- ・ [杭頭曲げモーメント] を未入力 (= 0)、[耐力壁周りの梁の剛性増大率] を 100.0 (デフォルト値) とした場合

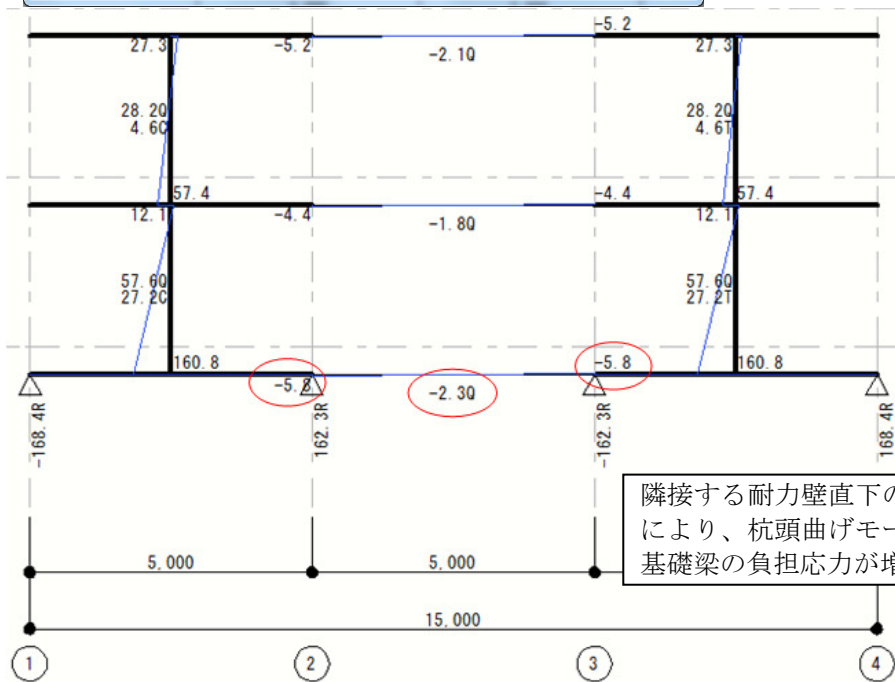
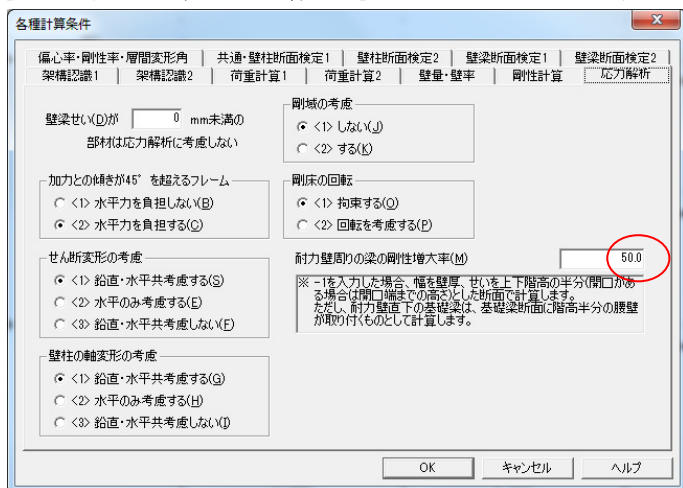


- ・ [個別詳細設定-支点]において、①②③④軸の支点に 300[kNm]の杭頭曲げモーメントを入力した場合 ([耐力壁周りの梁の剛性増大率]は 100.0)



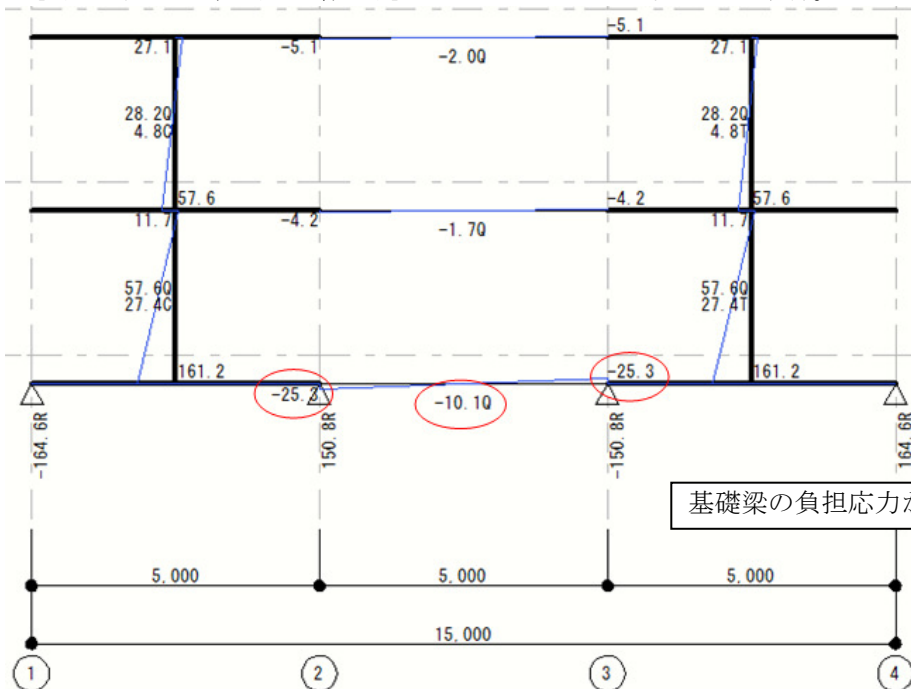
杭頭曲げモーメントを入力したことにより、②-③軸間の基礎梁に応力が発生しています。

・ [耐力壁周りの梁の剛性増大率]を 100.0 から 50.0 に変更した場合



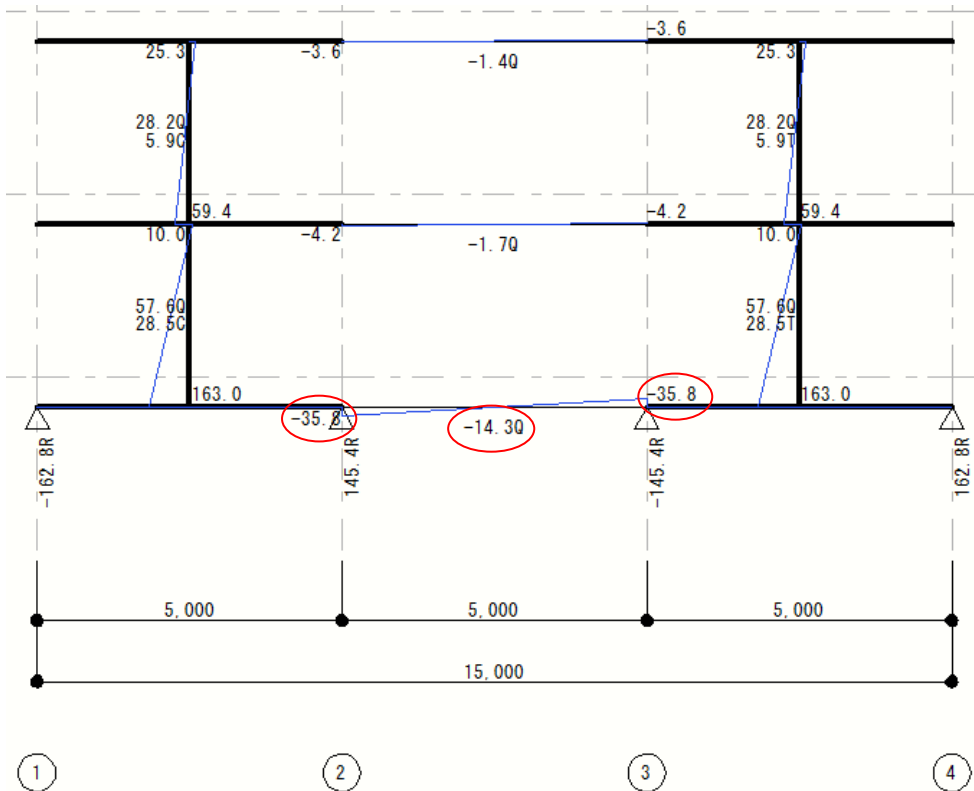
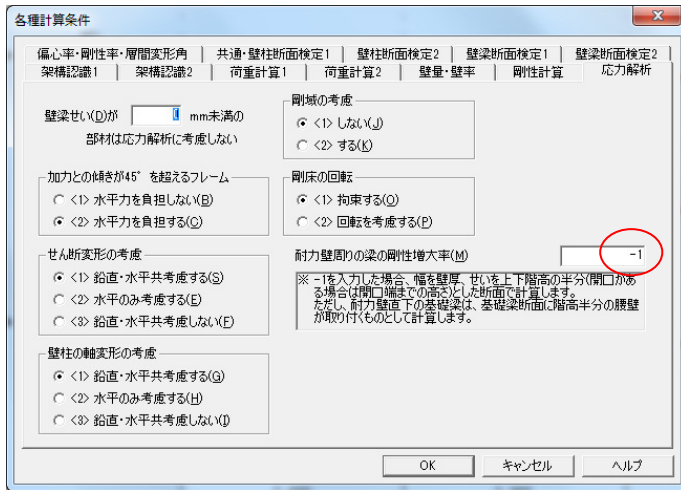
隣接する耐力壁直下の基礎梁剛性が減少したことにより、杭頭曲げモーメントによる②-③軸間の基礎梁の負担応力が増加しています。

・ [耐力壁周りの梁の剛性増大率]を 100.0 から 10.0 に変更した場合。



基礎梁の負担応力がさらに増加しています。

- ・ [耐力壁周りの梁の剛性増大率]を 100.0 から-1 に変更した場合。



[耐力壁周りの梁の剛性増大率]を-1とした場合、耐力壁周りの梁は、幅を壁厚、せいを上下階高の半分とした断面形状で応力解析を行います。
 耐力壁直下の基礎梁は、基礎梁断面に階高半分の腰壁が取り付いた断面形状で応力解析を行います。